

# SATO YAMA 里山 未来へ

とちぎの生物多様性 ⑤

# 人間が守る生態系

料として提供している。

キヨウやヤマユリ、  
ホタルブクロなど多彩な  
草花。「スタバ」の店舗  
では金網を鉢代わりにし  
て側面を含む5面で緑を  
演出する。このほか、美  
術館や集合住宅など首都  
圏で同様の利用が広がっ  
ているという。

世界規模で展開するコ  
ーヒーチェーン店「スタ  
ーバックス」の都内店舗。  
ファッショナブルな店の  
アクセントとなる緑の植  
栽は、本県の那珂川町の  
里山が“生まれ故郷”だ。  
都市に里山空間をつく  
り出す事業活動の「5×  
緑(ゴバイミドリ)」に  
加わる町、林業佐藤  
昭一さん(49)は季節  
ごとに、自宅近くの森林  
で草花を探取、商品の材

(くばみらい市)の矢澤光  
一代表(49)は「里山に  
管理が定期的にできるよ  
うになった」という。

NPO法人オオタカ保

成する植生を見つけるの  
は難しい」と苦労を打ち  
明ける。

里山林は人が管理する  
ことで、豊かな生態系を  
維持してきた。しかし、  
人間の経済活動とのかか  
わりが減り、荒廃が進ん  
だ。

## ●農業と保護両立

薪炭林だった佐藤さん  
の森林も手入れが行き届  
かなくなっていたが、活  
動に参加して、提供した  
人間の経済活動とのかか  
わりが減り、荒廃が進ん  
だ。

生態系のシンボルとさ  
れる猛きん類。同基金は、  
市貝・茂木周辺の里山に  
生息するサシバを対象  
に、えさとなる田んぼ周  
りの動植物の生息地保全

に向け、農業と保護活動  
の共存を目指すモデル事  
業を始めるに至った。

遠藤孝一代表は「生態  
系保全地としての付加価  
値を農産物に付け、當農  
業を応援できないか」と構  
想を練る。その上で「農

業を始めた」と提言する。  
(終わり。この企画は  
佐藤洋、伊藤幸司が担  
当しました)

る。

遠藤孝一代表は「生態

め豊かな生態系は危機に  
ひんしている。未来に引き継ぐために、県民一人  
一人の行動が問われてい

る。

県内でも、里山をはじ



# 「都市住民の力と知恵を」

耕作が続く谷筋の谷津田に近い林  
で、スコップを使い草花を探取す  
る佐藤さん=20日午後、那珂川町